



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.68

毎月1日号に掲載

自治体会計に複式簿記を

私は議員になるまでは病院の経理担当として財務諸表の作成、給与計算、社会保険事務等を担当していた。ところが当選後に市役所の予算書や決算書を見て戸惑った。さっぱり解らないのである。

自治体会計は単年度決算の単式簿記であり、企業会計では常識である損益計算書や貸借対照表が存在しない。これでは福山市の財政が健全なのか否か判断が難しいが、毎年収支は30億円程度黒字である。黒字とは当年度の収入より支出が少なかったという意味で、利益を出した訳ではない。そもそも収入・支出ともに予算書通りに執行されれば収支は＋－ゼロなのだ。

そのうえ決算は予算より軽視されており、一般会計の決算書が議会上程されるのはなんと11月の臨時議会である。一般企業は5月末に決算書を作成し納税までです。本市も決算

内容を新年度予算に反映させるために、9月議会に間に合わせるよう要望している。県内では呉市などが9月に上程しており、他自治体にてきて福山市にできないはずはない。さらに減価償却という概念も無いため、過度のインフラ整備後は後年度負担に喘いでいた。

そういった中で下水道部は最盛期一千億円を超える事業債を抱えていたが、数年前に水道局と組織統合して「上下水道局」となり、会計も複式簿記に転換した。これにより経営状態が明確化され、原則独立採算のはずが一般会計からの基準外繰入金も明らかになり、やむなく下水道使用料の値上げにより繰入金を解消した。

複式簿記の導入により下水道事業の経営状況が改善された経験から、これを市役所全体に波及させればと考えた。調べてみたら先進国の自治体会計で単式簿記を採用しているのは日本だけであり、日本国内で複式簿記を採用しているのは東京都と大阪市だけだ。つまり石原都知事と橋下市長という卓越したリーダーによってのみ実現したと言っても良いだろう。役所内の抵抗は大きいだろうが、枝廣市長の手腕に期待したい。